

# 20歳

ハタチの原点

毎回、福岡女子大学に縁のある方々を紹介します。  
あの人は20歳の頃、どんなことを考え、  
どんなことに迷い、どんな選択をしてきたのか  
若き日々の原点となるライフストーリー。



現在の仕事風景



学生時代(写真右端)

福岡女子大学 経営管理センター長  
**池永 滋子** IKENAGA SHIGEO

福岡県大牟田市出身  
1984年関西大学文学部国文学科卒業。1985年福岡県へ入庁。電算システム課、人事委員会、調査統計課、労働政策課、障がい福祉課等を経て、2020年から福岡女子大学で勤務。

### 思い出の本

私の2大スガツとする小説は、ハインラインの『夏への扉』と高田郁の『銀二貫』で、後者は割と新しいものですが、『夏への扉』は大学の時に出会ったものです。友人と恋人に裏切られ散々な目に会いつつも、飼い猫と一緒に奮闘し、最後はスガツとするのが快感で、うじうじ悩んでいるようなとき、読むとほっこりできるので、今でもときどき掘り出しては読んでいます。

『夏への扉』というタイトルは、飼い猫のビートが、冬でも家のドアのどれかがきつと夏につながつていると信じて、一つひとつドアを開けさせて外に出ようとするところからきているようです。他愛のないお話ですが、主人公(と猫)の「あきらめない」「楽観的」な生き方には共感します。



20歳の頃は、大学に入り暢気な一人暮らしを楽しんでいました。24時間が自分の時間で、好きなことだけやっていく気がします。といっても、徹夜して本を読んだり、映画に行ったり(当時、入れ替え制とかはなかった)で2〜3回見るとか、1日中FMラジオを聞くとか...という程度のもので、それに、どちらかというと真面目な方なので、朝はきちんと起きて3度の食事は欠かさず、授業も(ほぼ)真面目に出ていましたし、予習とかもけつこうちゃんとやっていた。バブル期の前で割とんびりとした時代だったのではないのでしょうか。「大学自由」という雰囲気が、今より濃かったかもしれません。

大学時代は4年間、オーケストラに入っていました。中学、高校も吹奏楽部で、音楽をやっていたので、大学では何か大学っぽいサークルに入って遊ぼうと初めは思っていたのですが、同じクラスに先にオーケストラに入っているのを知って、これは負けておれん、シンフォニーを演奏する機会なんてもうないぞ、ということで、カンオペ(関西大学のオーケストラ)を略するつもりになりました。に足を突っ込んでしまいましたが、年に2回の演奏会に合わせた練習がメインになるのですが、その合間に夏合宿や夏の冬の団内発表会、指揮者コンテスト、ジャリコン(小学校訪問演奏会)などイベントもたくさんありました。思い出深いのは、団内発表会(好き勝手な曲をやる発表会)で、同学年で「運命」(す)を、1年に1楽章ずつ、3年かけて全曲演奏したこと。正式な演奏会と違って、付録の編成で、本番は楽しみながらも、ヤバイものでした。特に、運命の3〜4楽章のつなぎは、けつこう難しいのですが、よろけつこうなんと4楽章に突入できた時は、思わず客席(オーケの団員)から拍手が起ころたりしました。4年生のときには、内輪ですが、改めて全楽章通しの演奏会を開くことになり、同じ学年のメンバーで、出来はともかく、4年かけて「やり遂げた」感がありました。この仲間は今も交流が続いていて、卒業して40年近く経っても、年に1回、同窓会が開催されています。私が大学の進路を決めたとき、また卒業後の就職先を決めたときの理由はともシ

ンプルでした。大学は「好きなことを勉強したいから」、就職は「女性でも長く働ける仕事に就きたいから」。恥ずかしながら、大学を選んだとき、将来どんな仕事をしたのか、そのためにどんな勉強をすればいいか、といったことは、あまり考えませんでした。「やりたい勉強をしたい」それだけでした。一方、就職の方は、私が就職した時期は、男女雇用機会均等法の施行前で、就職しても結婚や出産で退職する(せざるを得ない)人がまだ多かった中で、どういう仕事をしたか、というより、「ずっと続けられる仕事を持ちたい」というのが私の第一の希望でした。社会に貢献できるということももちろんありましたが、それが公務員の道を選びました。大学で何を学ばるか、かと思いつくのですが、ある専門科目の授業中に先生が「あなたが今勉強していることは、社会では何の役に立たない。教養やね」と言われました。しかし同時に「教養はあなたを形作る元になる。ものを考える土壌になる。もの考え方を学ぶのが大学だ」というようなことを言われました。「役に立たない」という言葉は、当の学生には衝撃的ではありましたが、同時に、腑に落ちるというか、漫画にすると、頭の上に電球がバツと灯るような感じがしたものです。「教養」の意味合いは、今の大学教育のものとはちょっと違うかもしれませんが、やはり、今の私を作っているのは、これまでの読書や音楽の経験なんだろうな、と思っています。勉強して、あるいは仕事をしていて、これが自分のため、社会のためになるのかと疑問に思う瞬間は多々ありますが、そういうとき、この先生のことを思い出して前を向けたいと思います。

特集  
福岡女子大学の学生支援とは?  
**教職協働による充実のサポート体制!**

My life  
株式会社 Q-CAP 代表取締役社長  
**藤本 久美**様



# 街

中村稔

ふと——道ばたの樹が僕に近づいてくる  
 ビルとビルの裂け目から急に空がひろがる  
 天心をつきぬけた傷あとがある  
 その黄イの滴りが僕の手のとどく処にある  
 僕のうしろにはつみかさなつた日常がある  
 僕の背中はいつも灼けつく死者の眼を感じる  
 僕は歩きだす 照りかえす赤煉瓦のビルの間を

突然街の騒ぎが止む群集が化石になる  
 視界が一度にひろがり風景は遠くで白茶けている  
 あらゆる街角から僕があらわれ愛想笑いをうかべ  
 そしてまた隠れていつて僕はひとりになる  
 ふと——忘れていた親しみがよみがえってくる  
 僕は道ばたの樹々にその枝々に挨拶を送る  
 僕はまだ知らぬ多勢の仲間挨拶を送る

## 中村稔 (一九二七)

なかもらみのる  
 詩人・弁護士

東京大学法学部卒業。在学中に旧司法試験に合格、弁護士としては、知的財産法一般を専門とする。日本商標協会会長などを歴任し、「知財の中村」と称されている。詩人としては、大学を卒業した一九五〇年第一詩集『無言歌』を刊行。一九六七年詩集『鴉原抄』で高村光太郎賞、一九九七年詩集『羽虫の飛ぶ風景』で読売文学賞、芸術選奨文部大臣賞、読売文学賞、藤村記念歴程賞、一九九八年日本芸術院会員、私の昭和史に至る業績で二〇〇四年度朝日賞、二〇〇五年私の昭和史で毎日芸術賞、井上靖記念文化賞受賞。二〇〇六年から二〇一〇年まで芸術院第一部長。二〇一〇年、文化功労者。二〇一七年、『言葉について』で現代詩人賞受賞。日本近代文学館理事長を経て名誉館長。  
 『現代詩文庫 中村稔詩集』(思潮社)より

### CONTENTS

- 03-06 **特集** 福岡女子大学の学生支援とは？  
**教職協働による充実のサポート体制！**
- 07-09 **My life**  
 株式会社 Q-CAP 代表取締役社長  
**藤本 久美 様**
- 10 **社会で羽ばたくまでしたち**  
 福岡市立中学校 国語科教員 友松 香葉さん

- 11-12 **世界歴史探究！ 第9回～中国編～**  
 国際教養学科 教授 武 維平
- 13-15 **FWU TOPICS**
- 16 **成果報告**
- 17 **教員著書紹介／編纂の寄り道／人事消息**
- 18 **福岡女子大学100周年記念事業**



福岡女子大学広報  
 FUKUOKA WOMEN'S UNIVERSITY  
 MAGAZINE  
 No.116 WINTER 2022

「学生一人ひとりの個性を見極める的確にアドバイスする就職支援。」

**深町**：大学生活を幅広くサポートする学生支援について、今日は「出口」にあたる就職支援の方から見ていきたいと思います。まずは4年生の古賀さん、就職活動はどのように進めましたか？

**古賀さん**：私が就職活動を始めたのは3年生の4月でした。所属している研究室の関係でプログラミングなどに興味があったので、なんとなくですがIT業界がいいかなと思っていました。そこからエントリーシートを書いたり、インターンシップなどに参加して3年生の3月に内定という感じです。約1年間就職活動をしていましたが、その間、キャリアコンサルタントの洪武さんにはとてもお世話になりました。

**洪武**：本学では、3年生になった学生と大学院生に対して、キャリアコンサルタントが担当制で全員に面談を行っています。古賀さんのように、自分から動く積極性のある学生だけではないので、学生全員の個性を見極めて、その人に合った指導をしています。面談

回数も、人によってかなり変わってきますね。

**深町**：大学の規模が小さいこともあって、より具体的なアドバイスができるんですね。

**洪武**：そうですね。就職活動では選考過程の面接に苦労する学生も多いので、面接指導は特に大切にしています。今はコロナ禍で面接もオンラインのところが多く、モニターを通しての声の高さや表情は対面でのものとはまた違ってきます。まずは良い印象を持つてもらえるようにきめ細かなアドバイスが必要ですね。

**深町**：そういった本学のキャリア支援の活用他に、古賀さんは何か具体的な行動はしましたか？

**古賀さん**：私はサークルに入っていなかったこともあり、就活の情報を集めるのは正直苦勞しました。ですが全国の就活生が集まるチャットに参加したり、他大学の友人に聞いたり、自分なりに動いたつもりです。

**洪武**：古賀さんのようにやりたいことが初めから決まっていればいいのですが、学生がみんなそういう人というわけではありませんで、学生のみなさんには、まずは、

自分が頑張れそうだと思う分野を見つけてほしいと思います。そうすれば、ぼんやりとしたものでなく、より具体的な将来像を見据えてのアドバイスができ、就職活動も成功に結びつきやすいです。

**深町**：多くの学生を見てきて、本学の学生の特徴みたいなものはありますか？

**洪武**：採用した企業の方からもよく言われますが、真面目な学生が多いですね。こちらが言うことはすぐに吸収してくれるので、支援にやりがいを感じます。

「寮生活も教育の一部。成長を促す「福女大基礎力」。」

**深町**：古賀さんのそうした積極的な姿勢には、一年次の寮生活での影響もありますか？

**古賀さん**：はい、寮での生活はコミュニケーション力の面でも、自分の考え方を広げるといっても、大きな体験でした。4人1部屋のエントリでの共同生活なので、自分のわがままだけ通していたらルームメイトとぶつ

かるし、そこはユニット内での話し合いが大変になります。例えば夜早く寝る人がいたら、遅く帰ってくる人は生活音を最小限にするのがよいのですが、毎日のことだとなかなか不便なこともあります。とにかく、最初は大変でした。

**木村**：寮には留学生もいますよね。留学生との共同生活が、自分のキャリア形成に与えた影響はありますか？

**古賀さん**：一番大きかったのは、違いを楽しむようになったことです。最初は文化も習慣もかなり違いがあつてびっくりすることもたくさんありましたが、それを違うと排除するのではなく、「そんな考え方や文化もあるんだ」と思えたユニットだったので、寮生活はとても良い思い出になっています。人間はそれぞれみな違う考え方や価値観を持っているもの。わかっていても、それをなかなか受け入れることは難しいと思います。それを楽しんで受け入れることができると、それを楽しく受け入れることができます。もちろん、いろいろなところで人間関係を築く上でとてもプラスになりました。

**白川**：共同生活を行うユニットの雰囲気は大切ですね。他人どうしなので、最初からすぐにうまくいくユニットばかりではないですが。

**深町**：そうした寮生活における学生支援もありますよね。



学生支援センター  
キャリア支援グループ  
副センター長  
国際教養学科 教授  
木村 貴

学生支援センター  
キャリア支援グループ  
就職支援員・  
キャリアコンサルタント  
洪武 敬子

環境科学科 4年  
古賀 詩織さん  
筑紫丘高校出身

学生支援センター長  
白川 純子

学生支援担当副学長  
国際教養学科 教授  
深町 朋子

特集

福岡女子大学の学生支援とは？

教職協働による充実のサポート体制！

せっかく頑張って大学に入学するのに、やりたいことも見つからず、なんとなく時間が過ぎていく…。そんなことがないように、福岡女子大学は手厚い学生支援を用意しています。学生自身の体験談や、教員・職員それぞれの目線からの意見などを、たっぷりとお話してもらいました。



入学したばかりで緊張や不安もあり、いきなり教員や職員に相談するのはハードルが高いと思いますが、先輩たちなら相談しやすいのではないですか。

深町：福女大では寮生活も教育の一部という考えで「寮教育」と呼び、具体的に伸ばしてほしい力も定めていますね。

白川：本学には「福女大基礎力」というものがあり、寮教育では「主体性・自立性」「コミュニケーション」「チームワーク・リーダーシップ」「多元的思考」「問題解決力」の5つの力を伸ばすことを目的としています。入学時には学生にもこれをアナウンスして、生活の中でこの福女大基礎力を意識してもらおうよ

福女大は学生と教職員の距離が近くて就職のことでなく、どんな小さなことでも相談することができました。他大学に通っている友達の話や聞くと、大学側に相談をするのはハードルが高いという感じだったので…。でも、もしかしら学生側がどういう支援があるのかを知らないこともあるかもしれない。ちゃんと活用できれば、学生にとって身になるサポートがたくさん受けられます。

白川：本学の場合、学生支援センターの中に保健室と学生相談室があって、そこに3人のカウンセラーと保健師を配属しています。カウンセラーというと心の病気の対応とかわれがちですが、それだけでなく、例えば「寮のルームメイトと上手くいかない」などの日常の悩みの相談もできる場所です。一人で抱え込まずに、些細なことでも気軽に相談に来てほしいですね。知らない学生たちのために、保健だよりを定期的にメールで配信して、相談しやすい雰囲気づくりも行っていきます。

深町：カリキュラムに関することは教務企画センター、それ以外のことは学生支援センターというように、全方位的サポート体制がありますね。

古賀さん：私も就職のことだけでなく、通学定期の更新のことや授業が被ってどうしよう！など、とにかくありとあらゆることを相談していました。就職相談には何回も通ったので、お世話になった渡武さんは学内

うにしています。

深町：自覚をもって寮生活をすることで、毎日の生活の中で自分を成長させる場面をたくさん持つということですね。

教員と職員が協力し合って、全学生を全面的にサポート。

深町：留学生の就職支援についても聞かせてください。

渡武：留学生の就職については、実際に就労ビザを取得できる企業につなげないといけないので、日本人よりも厳しいのが現状です。ですが、そうした留学生を対象にした企業情報をしっかりと把握してアドバイスをしています。また、福岡県内での就職を希望する留学生もいるので、関東圏などにも視野を広げるように教職協働でアドバイスしているところです。

木村：未来に不安がある中で本学に来ている留学生もいると思うので、留学生向けの授業を担当している教職員とも密にコミュニケーションをとっています。

深町：それが本学の教職協働ですね。

白川：私他他大学にも勤務していた経験があり、教職協働というのはいろいろなところで言われていますが、本学の学生支援の場合は2019年4月に学生支援センターができてからより具体的にになりましたね。それまでもコミュニケーションはもちろんあ



りましたが、やはり事務組織と教員組織に分かれていた部分があったと思います。何か新しいことを企画するときに教員の視点と職員の視点が融合するので、さらにより良いものができるようになりました。

木村：教員と職員がお互いの情報を交換することで、学生の授業中のことだけでなく生活面などについてもよく見えるようになります。そうなる的確なアドバイスもできるようになりますね。

白川：そういった教職協働の基盤がある中で、これから学生支援センターでは学生の視点も入れて大学運営をできればと思っています。今年度から学生自治会と教職員が協力し合える環境を整えています。これからは、大学が一方的に何かを行うのではなく、



のお母さんの存在です(笑)。  
渡武：来年は卒業生になるので、四輪駆動としてOG訪問や在学生に向けての座談会などで、まだまだよろしく願っています(笑)。

自分らしく力強く生きる、そんな学生を応援する大学です。

深町：最後にみなさんから、学生や入学希望者にメッセージをお願いします。

白川：本学には自分で手を伸ばせばいろいろなことが体験できるチャンスがたくさんあります。若いうちはいくらでも失敗していいので、大学生のうちに多くのことを経験し、自分を磨いてください。

渡武：これからは多様性の時代で、何を選択しても良い時代になってくると思います。それを支援してバックアップできる環境が本学にはあるので、常に正解を求めようという考えではなく、自分自身を成長させて多様性の時代の中で自分だけの生き方を見つけてください。

木村：本学は女子大で小規模なので、本当だと他大学に比べて多様性は少ないはずですが、逆にその多様性が売りになっているのが面白いところだと思います。ぼんやりと過ごすだけの大学生活にするのではなく、ぜひその魅力や面白さを満喫してほしいです。

古賀さん：何か学びたい人はもちろんです



学生や卒業生の方も一緒に活動していければいいですね。

深町：今年度から就任した向井学長がよく「大学は四輪駆動だ」と言われています。教員、職員、学生、そして卒業生が協力して福女大を一緒につくっていくのは教職協働の進化形ですね。

どんなことでも気軽に相談できる 全方位を網羅したサポート体制。

木村：古賀さんは学生として、本学の学生支援に対して要望などはありますか？

古賀さん：これというのは特にありません。



が、まだやりたいことが見つからない人にも、ここ来れば自分の価値観を深く学べて、何かを得られるはず。勉強だけでなく、いろいろなことを経験し、自分の価値観を楽しむ4年間にしてください。

“頑張りは裏切らない。 自分を信じて、進んでください。”



ような公務員がいいのかなと思っていたんでしょね。

——ご両親の影響が大きいですね。

そうですね。とはいえ、父は家の中のことはほとんど母に任せていました(笑)。母も黙って働きながら家のことや、子育てをやっていた、そういう父の言葉や母の背中を見て育ったので、自分も働くんだという考えに自然になっていきました。3歳違いの妹も、幼い頃から小学校の先生になりたいと言っていて、その夢を叶えました。でも、母は頑張らすぎたのか私が27歳のときに亡くなってしまうんです。それで妹夫婦が父と同居してくれたんですが、子育てや家のことに専念したいと仕事を辞めたんですね。そのとき、父は仕事を頑張つて欲しかったと悲しんでいました。女性が仕事をすることを応援してくれている父の、印象的なエピソードです。

学生時代こそ、多くの人から 多くのことを取り入れてください。

九州電力に入社されたきっかけは？

私が就職活動をするときに、ちょうど男女雇用機会均等法が施行されたんです。当時は男性も女性も同じように門戸が開かれている企業がありませんでした。そんな法律ができたこと、中でも九州電力は4年制大学卒業の女性を積極的に採用していたこと

もあり、ちょうどタイミングが良かったと思います。私はとにかく「長く働けること」を目標にしていたので、ここなら定年まで働けるんじゃないかと思って九州電力に入社しました。大学は商学部で経営分析などをやっていたので、電力会社は社会に貢献している企業だなと思ったのもきっかけのひとつです。

——仕事を始めて、学生時代にやっておけば良かったと思うことはありますか？

たくさんあります。私はとにかく真面目な学生で、講義も絶対に休んではいけないと思っていて、授業のノートもしっかりとって遊んでる人も多くて、私はいつも試験前に友達にノートを貸していたんです。キャ



株式会社 Q-CAP 代表取締役社長 藤本 久美 様

熊本県出身。1986年福岡大学商学部卒業、男女雇用機会均等法施行の年に九州電力入社。部署やポストは変わりながらも広報関係の仕事に25年携わる。その間、出産、育児、介護を経験。その後、福岡営業所長、社員研修所長を経て、2020年九州電力の特例子会社の株式会社 Q-CAPに出向。

INTERVIEWER



国際文理学部 環境科学科 2年 / 福岡県立春日高校出身 柴田 朋佳さん

ラクターのルーズリーフを使っていたのですが、あまりにもみんながコピーを取るから、最後の方はキャラクターが豚のように真っ黒になってしまつて(笑)。真面目なものいいですが、授業だけではなくいろんな経験をしてあげれば良かったなと思います。長期の休みがあるのも学生時代だけなので、もっと有効に使っていれば良かったな。社会人になって多くの人にいろいろなことを教えていただきましたが、あれが学生時代の柔軟な気持ちのときだったら、もっと違う考えも生まれていたのかもしれないと思います。だから、今の若い人たちは、学生時代にこそ多くの人に会って話してみると良いと思いますよ。

仕事の大変さはあるけど、 女性だから大変ということはない。

——現在どんなお仕事を？

広報関係の仕事をして25年経過後は、営業所長や社員研修所長を務めました。そして2020年に聴覚に障がいのある方や高齢者のための放送用字幕制作をする会社の代表取締役社長に就任しました。これは社員20名ほどの会社ですが、障がい者の雇用を目的に設立されました。障がい者も健常者も全員が社会に貢献しているという自覚と誇りを持って仕事をしているのを感じます。よく障がいを持っていると気を遣うこと

男性、女性、障がい者、健常者の 垣根なく地域の中で育ちました。

——どんな子どもでしたか？

熊本の自然豊かな場所で、毎日近所の人とキャッチボールをしたりザリガニ釣りをするような元気な子どもでした。当時は気にしていませんでしたが、今思い返すと友達の中には年上の人や障がいを持っている人もいて、年齢や性別、健常者、障がい者など関係なく、たくさんの人と遊んでいましたね。

——その頃の夢を教えてください。

あまり子どもらしくないかもしれませんが、公務員になりたいと思っていました。これは両親の影響がすごくあると思います。私の両親は昭和一代の生まれでしたが、当時としては画期的な考えを持った人たちだったんです。小学校6年生のときの宿題で、「家の中の掃除や洗濯、料理などは女性の仕事かどうか、おうちの人に聞いてくる」というものがあつたのですが、父ははつきりと「とは限らない」と書いたんです。家庭では共同生活をしているので、助け合いの精神が必要だと。それが学級だよりのようなものに掲載され、他の家庭は「男性は仕事、女性家事」という意見が多い中で、私の家庭はちょっと違うなと感じました。当時はまだまだ女性は家にいるものという意見が主流だったので、父はいつも私に「長く働きなさい」と言っていたので、それなら父の



趣味の登山で久住山へ

もあるのではと言われますが、仕事の上では特に強く意識したことはなく、全員にプロ意識を感じます。全員がどうすれば会社が良くなるかを考えて、前向きに頑張っている。そんな姿を間近で見ていると毎日頭が下がる思いです。

——女性の管理職や代表取締役社長という ことで何か大変なことはありますか？

それは全く感じません。もともと入社したときも、電力会社なのでどうしても男性が多い職場でした。会議でも私一人が女性ということも当たり前のような環境で…。仕事で大変なことはこれからもあると思いますが、女性だから大変ということはないですね。きつと周りが性別を意識しすぎていっているんでしょね。

「信じる」「逃げない」  
私に大切にしている2つのこと。

「仕事をしていて変わったなと思うことはありますか？」

独身時代は自分一人で働くだけで良かったけれど、結婚して子どもを産んでプライベートと両立しなくてはいけなくなってきたときに、言い方は悪いかもしれませんが手を抜くというか、きちんと休みをとったり、人に助けをもらおうという考え方になりました。先ほども話しましたが、私は本当に真面目だったので、それまでは仕事だけに没頭していたんです。結婚や子育てが人生に入ってきたことで、優先順位のつけかたや段取りがうまくなってきたと思います。

「それでは、これだけは変わらないというものは？」

仕事をしていく上で、大切にしていることが2つあります。1つ目は、周りの人を信じること。年齢を重ねて管理職などになると、どうしても「私がやった方が早い」なんていう場面に会えることがあると思いますが、そんなときでも「この人は必ずやってくれる」と思っておく。これは仕事だけでなく、家庭でも言えることだと思います。2つ目はどんなに大変なことでも逃げないこと。仕事をしていると、「ああ、今日は行きたくない」なんて思うときがありますが、まずは目の前のことをしっかり受け止めて、立ち向かうことを大切にしています。

「座右の銘などはありますか？」

『和顔愛語』です。やっぱりいつも笑顔で柔らかい話し方をする人は、周りにも良い影響を与えていると思います。どんな人にも、ちゃんとあなたのことを受け入れてくれますよという態度で接していきたいですね。

「今後の夢はありますか？」

これまでずっと組織の中で働き続けるということを目標に生きてきましたが、これからは地域の中で一人ひとりで働いていきたいなと思います。今は会社のトップとして社員のことを大切にしていきたいと思っていますが、先々は役職や肩書きを抜きにして私がどう社会に貢献できるのかを考えていきたいと思っています。



「最後に大学生に向けてメッセージをお願いします。」

社員や若い人を見ていて思うのですが、頑張っている人って周りの人も自然に応援したくなるんですよね。仕事をしながら子育てや介護をしている人なども、声をかけてフォローをしたくなる。私もこれまでたくさんの人に助けてもらいました。周りにはちゃんとあなたを見てくれてます。頑張りは絶対に裏切らないので、自分を信じて、周りを信じて進んでください。

My life - 過去の記事 -

114号 2021.7  
凸版印刷株式会社  
九州事業部企画販促本部  
TIC企画一部 部長

石橋 匠 様

112号 2020.12  
徳東ファディ株式会社  
取締役商品経営本部 本部長

吉水 請子 様

115号 2021.10  
株式会社電通九州  
インテグレート・ソリューション局  
専任局長 兼 新規ビジネス開発室長

小野 和美 様

113号 2021.3  
株式会社ゼンリン  
本社統括本部ダイバーシティ推進部長  
本社統括本部ダイバーシティ推進部

土谷 和子 様  
松岡 綾 様



扉の先に未来がある

社会で羽ばたく  
なでしこたち

#6



福岡市立中学校 国語科教員  
友松 香菜さん

2018年度 国際文理学部 国際教養学科 卒業  
2020年度 大学院 人文社会科学部 言語文化専攻 博士前期課程 修了

留学に憧れて

中学生の頃から様々な留学会社へ勝手に資料請求しては、届いた資料を眺め両親にプレゼンするほど留学に憧れていました。両親の「大学生になったらね」という言葉に、家族が安心するよう福岡県内で…留学や国際関係に特化した大学…と、必死に探して見つけたのが福女大でした。実際に入学してみると、すでに留学経験豊富な友人も多く、初めは出遅れたと焦りましたが、様々な言語が飛び交う学内、日本人同

士でも異文化な寮生活、個性的な先生方による講義にどんどん引き込まれていったのを感じています。

自分を受け入れることができた  
海外での経験

私を変えてくれた最も大きなチャレンジは、タイへの1年間の交換留学です。留学に行く前の私は、周りの人と自分を比べて自己嫌悪に陥り、それを全部周りのせいにしていました。しかし、英語もなかなか通じな

知識は見るとすべての  
解析度を上げる

現在は福岡市立の中学校で、2年生に国語を教えています。生徒全員が毎日等しくかわいいうえに周りの先生方がいつも優しく楽しく励ましてくださるので、仕事の忙しさや自分の技量の無さに唸りつつも

い東南アジアの街で日常を送る中で、ある日突然、「人の助けがないと私は何もできない」ということがすとんと腹に落ち、そこから周りの助けや自分の努力を素直に受け止め、今の自分を受け入れられるようになりました。留学をきっかけに自分を好きになれたことが福女大に来て最も良かったことの一つです。



大学院の日本語教育研修で訪れたタイにて

福女大生へのメッセージ

もうみんなすでにたくさん頑張っていると思います。頑張っていれば縁あるところに辿りつけるので安心して下さい。時々肩の力を抜いて、香椎浜を散歩して深呼吸をして。贅沢な大学生活を思う存分味わってほしいと思います。

日々幸せに頑張っています。大学時代にやっていたよかったこと、もってやっておけばよかったことは、どちらも「勉強」です。高校までは違い、自分の興味関心の赴くままに勉強することによって、時間も使えるのは大学時代だけと言っても過言ではないと思います。今まで見えていなかったものが見えてきたときの嬉しさは何事にも代えがたく、教員として働く理由の一つでもあります。就職には直結しないかもしれませんが、人生には直結すると思います。見るものすべての解像度を上げてくれる知識を、ぜひつけてほしいです。福女大は学生数が少ない分、抜きんできた才のない私のような学生でも丁寧なサポートが受けられ、様々なチャンスを掴むことができる大学だと思います。社会人になってからそのありがたさを日々実感しています。

OPEN THE DOOR



## 世界歴史探究!

~第9回 中国編~

武継平=文

### 三星堆遺跡、中国古代文明の謎

二〇二二年三月二十日、中国国家文物局「中国考古重大プロジェクト」進捗報告会が開催され、二〇一九年十一月から中国南西部にある三星堆遺跡で三十四年ぶりの発掘が再開された後の成果を発表し、たちまち世界のビッグニュースとなった。

三十四年前に行われた初回大規模な発掘で、三星堆が五千年前の古代蜀国の都の遺跡だということはすでに判明している。当時出土した金の杖、青銅立人像、青銅獣首冠人像、青銅器神樹、青銅器縦目面、貼金銅人頭像などの国宝級文化財は世界を震撼させたが、今回は長年をかけ

た事前探査のおかげで短期間のピンポイント発掘で新たに五百件余りの極めて重要な文化財が相次いで出土した。中には、保存状態が完璧に近い金の仮面、青銅神壇、神樹紋様玉器といった第一級の国宝と大量の象牙が新たに見つかったという。

三星堆遺跡は中国四川省広漢市にある。地理的にいえば、従来いわれる「揚子江文明」の発祥地域だった華東地区からだいぶ西の方に離れてはいるものの、揚子江の上流に位置し、また文明発祥の時期もほぼ同期だったということで、揚子江流域に発祥し、そして広がった「揚子江文明」の一部と見なされている。

中国古代文明の源流といえ、五千年前の先史時代にあたる三代以前に遡ることができる。これはすでに科学的根拠がある年代測定法によって証明されている。無論、人類現在の科学技術では正確に測定することができないものもあり、例えば青銅器などもそうだが、要するに遺跡より出土物の年代推定は想像以上に難しい。

そもそも中国文明は黄河文明、という考え方は従来一般的だった。黄河文明を代表するものは、華北を流れる黄河の中下流域に発生した新石器時代の裴李崗文化（BC六〇〇〇年頃）、磁山文化（BC六〇〇〇年頃）、仰韶文化（BC五〇〇〇年頃）、龍山文化（BC二五〇〇年頃）とされている。これらの遺跡から新石器時代「中原」地域で農耕（畑作）や狩猟を主とする

生活様式を裏付けるものが大量に発掘されている。

黄河流域の先史文化遺跡の発掘が比較的長い歴史を有している。石器、土器、陶器、木器、玉器及び青銅器が大量に出ているが、精美に作られた日本の縄文土偶に比べると見つかっていない。青銅器のことを考えても腑に落ちない点がある。三代にはかなり高度な技術で作られた刀剣類、酒器類、祭祀具類のものは多数出土したが、神の顔らしきものや人面像らしきものはなぜかまったく出てこなかった。裴李崗遺跡から甲羅に刻まれている十六個の「文字」らしき「賈湖契刻符号」が発見され、最も古い甲骨文字かとわれわれに期待を持たせてくれたが、残念なことに、いまだに解読できていないためか「文字」扱いにはされていない。

ところが、二十世紀の前半から今までの数十年間、揚子江の下流にある華東地区から同じ新石器時代の遺跡が相次ぎ発掘されたことで、従来の黄河文明中国文明の単一図式が崩壊し始めた。浙江省の河姆渡遺跡と良渚遺跡、さらに中国南西部で見つかった三星堆遺跡という三大遺跡の出土物がそれまでの中国文明発祥の歴史を書き換えたと言っても過言ではない。河姆渡遺跡からは大量の水稲の籾が出土している。C14炭素年代測定により、六五〇〇、七〇〇〇年前の大規模な稲栽培文化の遺跡として世界最古のものだと判明し、同じ

余姚市にある良渚遺跡は二〇一九年にユネスコ世界遺産に登録された。このような揚子江流域の遺跡群の発掘は、離れた上流にある重慶市に近い場所に位置する三星堆遺跡の発見で、中華文明には黄河文明と揚子江文明という南北二つの源流があるという斬新な学説が確立され、中国文明史に新たな一ページが加えられることとなった。

揚子江文明の起源は、浙江、江蘇、湖南、湖北および四川盆地にまで広がっていた。揚子江流域の平原が都市化していく中で浙江、江蘇地域からは呉と越、湖南、湖北からは楚、四川盆地からは古蜀国がうまれた。

従来の黄河文明説は、中華文明が一次文明だと主張する。つまり「他の文明との関わりは一切持たず、独自に進化してきた」という意味合いを持つ。黄河流域の遺跡で明らかに外来文明の影響が見受けられるものが発見されていないから、なるほどと納得がいくかもしれない。しかし、揚子江文明に属する三星堆遺跡から出土したバラエティーに富みエキゾチックな青銅仮面や頭像を見てわれわれは目を疑わずにはいられない。しかもこれらの人面青銅器の外観は、黄河流域のものとはまったく異なっているように見える。青銅立人像、青銅獣首冠人像および青銅器縦目面はいずれも巨大な耳、前方に大きく突き出た目、耳の付け根まである大きな口、筋が通る高い鼻を特徴とする彫りが非常に深い顔は、



青銅立人像  
(揚子江文明・三星堆)



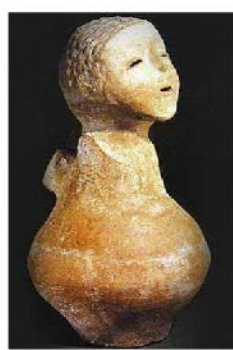
人面盃  
(黄河文明・殷墟)

古来「華夏民族」の平べったい顔と輪郭を異にしているのが一目瞭然だ。我々は疑問を抱かずにはいられない。五千年前の古蜀国にいた彼らはいったいどこから来たのか、古蜀国人の神かそれとも外来征服者なのか。だとすれば、中華文明は一次文明というよりも中華文明と西アジアから流れてくる外来文明の融合体ということにはならないだろうか。

中国は四千年の歴史があると人々はよくいう。いや、四千年ではなく、五千年以上であると主張する学者もいる。中国の先史文化の解明は、どうもカギが「文字」にあるようだ。現在でも発掘中の三星堆遺跡から今のところ文字が発見された報告はまだないが、殷墟から出土した甲骨文字以前の文字が今後の古代遺跡発掘で発見されるのを期待するしかない。



青銅仮面  
(揚子江文明・三星堆)



人面盃  
(黄河文明・陝西洛南)

### PROFILE [執筆者プロフィール]



国際教養学科教授  
武 継平

20世紀中国文学、中日比較文学に関する研究をしている。

01 2021.08.28

WEBオープンキャンパス開催

遠方にお住まいの方にも本学のことを知っていただくことを目的に、WEBオープンキャンパスを開催し、約150名の方にご参加いただきました。当日は、教職員による個別相談に加え、在学生スタッフ「広報サポーター」による各学科の紹介、寮や学生生活等のテーマに分かれた座談会、学生自主運営による各国の言語・文化を学ぶ「Language Cafe」が開催されました。参加した高校生からは、「たくさん質問が出来て良かった」「実際に英語で会話されているところを見て自分もそうなりたと思った」との声をいただきました。



広報サポーターによるプレゼンテーション

02 2021.09.14

女性のためのウェルカムバック支援プログラム 第3期開講式

家庭の事情で一時的にキャリアを中断している女性を対象とした、職場復帰・再就職を目指すための「女性のためのウェルカムバック支援プログラム」第3期の開講式をハイブリッド形式で行いました。9月から5か月間、さまざまな専門分野で活躍する講師からスキルや知識を学び、自身を企業にアピールする「福女大ウェルカムバックドラフト会議」を経て、「有償インターンシップ(60時間)」を実施します。再就職に向け、8名の受講生を全力で支援しています。



開講式集合写真

03 2021.09.16

秋卒業式・秋入学式

秋卒業式は新型コロナウイルス感染症対策のため、対面とオンラインを併用した形式で執り行われました。式典には学部生2名、大学院生3名が出席し、晴れやかな顔で新たな門出を迎えました。オンラインでの出席となった学生に対しても向井学長からスクリーン越しに卒業証書が授与され新しい形の卒業式となりました。

秋入学式は海外からも繋ぐオンライン形式で実施しました。大学院生3名はそれぞれの抱負を語り、オンラインではありましたがアットホームな心温まる入学式となりました。



▲秋卒業式の様子



▲オンライン上で式辞を述べる向井学長

04 2021.09.24

WJC Fall 2021 Opening Ceremony & Orientation

海外協定校から交換留学生を受け入れるWJCプログラムは、コロナ禍のため2020年度から遠隔で実施しています。9月24日に7大学(ガジャマダ大学、チュロンコン大学、マラヤ大学、レディー・ジュリラムカレッジ、ルンド大学、マンチェスター大学、プーラ大学)から受け入れたWJC生7名と学生サポーター、関係教職員が出席してオリエンテーションを行い、2021年度秋学期が始まりました。渡日することが叶わない中でも、オンラインを通じて世界各国からの学生が繋がり、日本について学ぶ貴重な機会となっています。



▲オンライン開講式

05 2021.09.28

JR九州デジタル勉強会にてデータ分析の成果発表

100名以上が参加したJR九州の社内勉強会において、環境情報学研究室(藤野研)の3年生がデータ分析の成果を発表しました。JR九州から提供されたSUGOCAやJQカード、列車予約の履歴など、約10GBのデータを用いて、コロナ禍の時期とそれより前の時期での比較など様々な観点からおよそ1か月にわたり分析に取り組みました。勉強会でのプレゼンテーションにおいて、分析結果を示しながら、今後の利用増加に向けた施策を提案しました。これまでに学んだデータサイエンスのスキルを実践の場で生かす貴重な機会となりました。



▲オンラインでの発表の様子

06 2021.10.01 - 11.30

オンラインハッピーフェスタ開催

オンラインハッピーフェスタ(新生堂薬局主催、本学後援)において、学生が考案した「レシピ動画」5本が公開されました。レシピは、本学と株式会社博多の味本舗との産学連携により開発した「Oiseries赤ちゃんだし」などを用いたもので、食・健康学科4年生 清田芽衣さん、下地寿美玲さん、宮本玲奈さん、元平侑那さん、山上楓花さんがそれぞれ考案しました。動画はハッピーフェスタの「栄養と運動ゾーン」において公開され、動画内では本学卒業生で新生堂薬局の管理栄養士として働いている田中里枝さんと新村奈央さんもレシピを紹介してくれました。



(左から)本学卒業生の田中里枝さんと新村奈央さん

▲(左から)食・健康学科 石川洋哉教授、元平侑那さん、下地寿美玲さん、清田芽衣さん、宮本玲奈さん、山上楓花さん

09 2021.10.12

はじめの一歩～リーダーシップキャラバン報告会～

全国19大学の学生が集まる「リーダーシップキャラバン」(9/6-9/8)に参加して気づいた、チームの目標達成に向けた自分の行動＝「周囲に影響を及ぼすリーダーシップの発揮」。小さな挑戦の積み重ねによりできることが増え、自信が付き、更なる挑戦に前向きになれることを実感しました。そんなリーダーシップの発揮を促す制度を本学にもつくる第一歩として、約50名の学生・教職員向け報告会を行いました。その報告会や今後のアクションの詳細を、大学公式ブログでも発信しています！(環境科学科2年 坪根由依、国際教養学科2年 野村風香)



▲ブログはこちらから報告会の様子



07 2021.10.02

高校生のためのイングリッシュ・キャンプ

高校生の英語コミュニケーション能力を強化し、異文化への理解を深めるため、高校1、2年生の女子を対象に、イングリッシュ・キャンプを開催しました。19名が参加し、AEP講師による指導の下、グループに分かれて教員・学生へのインタビューやリサーチに英語で取り組み、その成果を発表しました。プログラム終了後は、大学内の施設や寮を見学しました。コロナ禍のため、少人数・単日での開催となりましたが、高校生たちは限られた時間の中で熱心に英語を学び、学生や参加者同士の交流を楽しみました。



▲授業の様子

▲集合写真

10 2021.10.15

東部地域大学連携「性犯罪防止キャンペーン」

JR香椎駅において「性犯罪防止キャンペーン」が行われ、本学自治会の学生が活動に参加しました。福女大、福工大、九産大の連携事業「東部地域大学連携」のイベントとして、福岡東警察署の指導の下、3大学の学生が共同で性犯罪防止の声掛けや啓発グッズの配布などを行いました。

福岡県では夏から秋にかけて10～20代の女性を中心とした性犯罪被害が多発しています。同年代の女子学生が駅を利用する女性を中心に声掛けを行い、一層の防犯意識の向上を図りました。



▲集合写真

▲啓発グッズ配布の様子

08 2021.10.11

第6回ろうそく能

本学では2011年の国際文理学部創設以来、感性の教育に力を入れており、日本の伝統文化に触れる機会として今年で6回目となるろうそく能の公演を開催しました。寮活動の一環として鑑賞した学部1年生、近隣の教育機関や自治協議会の方々等、約200名が来場しました。人間国宝の梅若美氏と能楽師の鷹尾維教氏による公演の見どころ解説に加え、今回は会場のスクリーンにセリフをリアルタイムで投影するという初めての試みを行い、来場者はより身近に能の世界観を楽しみました。



▲能「清経」の公演に見入る来場者

11 2021.10.20

第2回留学説明会(オンライン実施)

交換留学を目指す学生を対象に、今年度2回目の留学説明会をオンラインで開催し、交換留学制度の概要や申請方法の案内、海外協定校の紹介を行いました。本学では2021年の秋より、交換留学の派遣を再開しておりますが、今回の説明会ではベルギーと韓国に留学中の学生3名が参加し、留学生活の現況について座談会形式で報告しました。参加した約50名の学生達にとっては、留学生活を具体的に知ることができる貴重な機会となりました。



▲交換留学生と担当職員との座談会の様子



IEEE マンガプロットコンテスト優秀賞 受賞

IEEE\*(アイ・トリプル・イー) Student Activities Committee が主催するマンガプロットコンテストにおいて、環境科学科4年 川上夏穂さんが応募した『おりこう!リコちゃん』が優秀賞を受賞しました。

川上さんコメント

研究室の指導教員である藤岡薫先生からご紹介いただき、マンガの原案とキャラクター案のイラストをつけて応募したところ、優秀賞を頂きました。受賞作品は、出版社・イラスト専門職の方々と打ち合わせを重ね、近日中にインターネット上で無料公開予定です。ご興味がある方はぜひ読んで頂けると嬉しいです。



▲左:環境科学科4年川上夏穂さん 右:藤岡薫准教授



▲賞状

※Institute of Electrical and Electronics Engineersの略。アメリカに本部がある、電子工学に関する学会で世界中の電気通信関係の規格の標準化などを行っている団体。

日本高血圧学会にて女性研究者奨励賞を受賞

2021年10月15日～17日にオンラインで開催された第43回日本高血圧学会総会において、食・健康学科の森田理恵子助教が女性研究者奨励賞 優秀賞を受賞しました。

発表演題「中高年における食塩摂取低減を目的としたうま味の活用効果とBMIの関係」

BMI(Body Mass Index)は体重と身長から算出される肥満度を表す体格指標です。BMIに関わらず、汁物等での減塩にうま味の利用が有効であることを発表しました。BMIが高い方たちは濃い塩味を好む傾向にありますが、うま味の利用で汁物等を美味しく減塩出来る事が分かりました。この結果は、食塩の摂りすぎと強く関連する高血圧の予防にも貢献できると考えます。



▲発表の様子



左:指導教員 太田雅規教授 右:森田理恵子助教

東区芸術文化祭「福岡女子大学 学生美術展」開催

千早なみきスクエアで「東区芸術文化祭」が行われ、11月6日からの3日間、本学の華道部と書道部が作品を出展しました。「東区芸術文化祭」は、東区の魅力ある芸術文化を多くの住民の方に触れていただくための東区主催のイベントです。華道部からはお生花やクリスマスリース、スワッグなどが、書道部からは書に加え、色紙や扇子が出展され、多くの地域住民の皆様からご好評いただきました。



▲書道部



▲華道部

福岡県美術展覧会 入選

2021年9月7日～10月3日に行われた「第76回福岡県美術展覧会(県展)」において、書道部に所属する国際教養学科4年 福田千夏さんの作品が入選しました。



福田さんコメント

今回の県展は、私にとって学生生活最後の展覧会でした。このような栄えある賞を頂けて大変嬉しく思っています。最近では、地域のイベントに書道部の作品を展示させていただくなど、福女大書道部の活動が少しずつ盛り上がってきているところです。私はもうすぐ卒業となりますが、これからの福女大書道部の活動にご注目ください。



▲国際教養学科4年 福田千夏さん

▲入選作品「李太白の詩」

14 2021.11.12

イルミネーション点灯式

新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制限され、もどかしい思いをする場面が多かった中で、大学と地域の方々が少しでも明るい気持ちになれるようにとイルミネーション点灯式を実施しました。福岡女子大学フィルハーモニーオーケストラの演奏で華やかに開幕し、クライマックスではカウントダウンに合わせて盛大にクラッカーを鳴らし、キャンパスが桜色のイルミネーションに彩られました。来場者には福女大ロゴ入りのチョコレート、お子様達にはお菓子の詰め合わせのプレゼントがあり、規模は縮小されつつも和やかな点灯式となりました。



▲メインストリートを彩るイルミネーション

15 2021.11.12 - 12.25

中村江月追悼展 開催

2020年11月に87歳で亡くなられた、本学の卒業生(第2期生)でもある書家 中村江月の追悼展が美術館で開催されました。会期初日から来館者・学生ともに足を止めて、日展入選作品のほか、しなやかに表情豊かな中村江月の世界を楽しみました。

【中村江月(本名:中村康美)】文学部国文学科第2回卒業生 万葉集などの美しく品格のある日本語にこだわり、言葉への美意識が書と混然一体となっている作品が多い。

美術館では2022年2月中旬～3月に「吉川幸作展」の開催を予定しています。「画集 はかた慕情」を元に、博多の街並みをお楽しみいただける企画です。皆様のご来館をお待ちしております。



▲中村江月先生のご子息 中村民雄様・史雄様を囲んで



▲向井学長から中村民雄様へ感謝状が贈られました

▲作品を鑑賞する来場者

12 2021.10.28 / 11.02

U.S. Consulate Principal Officer John C. Taylor explained American Politics during a lecture to FWU students

11月2日、在福岡アメリカ領事館首席領事、ジョン・C・テイラー氏によるセミナーが行われました。「Red States, Blue States: Political Partisanship in America」とのタイトルで、2021年アメリカ大統領選挙の結果を踏まえた党派的「分断」の背景をお話いただきました。専門用語などの問題を少しでも解消するため、10月28日に国際教養学科 石神圭子講師によるプレ講義が対面で行われ、約15名の参加学生は、各自準備をして当日に臨みました。当日は多くの質問が出され、現代アメリカ政治の一端を知る貴重な機会となりました。



▲石神講師によるプレ講義の様子



▲当日 オンラインでのセミナーの様子

13 2021.10.30 / 10.31

第68回かすみ祭

新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度は中止となったかすみ祭ですが、今年度は何としても実施したいという実行委員の強い思いにより対面とオンライン配信のハイブリッド形式で開催され、累計で629名が来場しました。春に企画を始動してから状況が二転三転の中で作り上げた今回のかすみ祭、当日を迎えるまで活動が制限される中で実行委員、出演者ともに精一杯準備をして臨みました。例年に比べ縮小されたかすみ祭でしたが、久しぶりにキャンパスで学生達が生き生きと楽しむ姿が伺えました。



▲かすみ祭実行委員の皆さん



▲グラウンドで練日

▲ミスコンテスト

# 福岡女子大学100周年記念事業

未来を拓く なでしこの花 一人を育て、知を生かす



## 寄附報告

福岡女子大学100周年記念事業基金へのご寄附に、心からの感謝を申し上げます。

計	件数	寄附額
	1,404件	162,440,726円

(2021年10月31日現在)

## 領収書について

2021年8月1日から2021年10月31日までにご寄附いただいた皆様には、2021年11月末頃までに「福岡女子大学 百周年記念事業基金寄附金領収書」を発送しております。

この領収書は確定申告時に必要となりますので、大切に保管いただきますようお願いいたします。

また、ご寄附いただいた方で、領収書がまだ届いていない方は、お手数ですが、100周年記念事業推進室までご連絡いただけますようお願いいたします。

## 寄附者ご芳名

福岡女子大学100周年記念事業の趣旨にご賛同いただき、多大なご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2021年8月1日から2021年10月31日までにご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名のご公表を希望されない方は掲載しておりません。

今後とも福岡女子大学100周年記念事業への温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

※本学ホームページにおいて、寄附開始以降、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載しております(ご公表を希望されない方を除く)

### 1 お名前・寄附金額の掲載についてご了承いただいたご寄附者様

※寄附金額別、五十音順にて掲載させていただきます。カッコ内の数字は累計寄附金額です。

100万円	花崎 正子様(120万円)	福永 洋子様(2万円)
50万円	梶山 千里様(1,050万円)	前田 百合子様
10万円	岡本 恵様(11万円)	山本 恵子様
	坂本 千恵子様(30万円)	横尾 恵子様
5万円	山下 敦志様	若狭 孝子様(2万円)
1万円	甲斐 千里様(2万円)	馬場 広希様(6万5千円)
	神崎 あゆみ様	

### 2 お名前だけの掲載についてご了承いただいたご寄附者様

※五十音順にて掲載させていただきます。カッコ内の数字は累計寄附回数です。

あ	大守 玲子様(3)	は	株式会社フクト様
	越智 咲子様	ま	村島 洋子様
さ	佐藤 亜矢様		諸石 克己様(2)
	菅原 美吉子様(3)		
た	株式会社タカギ様		
	瀧口 美美子様(4)		
な	中島 千代子様(2)		
	永原 真奈見様		

### お問い合わせはこちら

福岡女子大学100周年記念事業基金(募金)に関すること  
〒813-8529 福岡市東区香住ヶ丘1-1-1 100周年記念事業推進室  
TEL:092-692-3200 FAX:092-661-2420 E-mail:100th-bokin@fwu.ac.jp

## 教員著書紹介



向井 剛 学長

『英国初期印刷本研究への誘い—書誌学から文学・社会・歴史研究へ』

向井 剛(著) 発行:勉誠出版  
発売日:2021年10月29日



国際教養学科 木村 貴 教授

『ベトナム戦争と韓国、そして1968』

コ・ギョングテ(著)、平井一臣(訳)、姜信一(訳)、木村貴(訳)、山田良介(訳)  
発行:人文書院 発売日:2021年8月27日



国際教養学科 山根 健至 准教授

『グローバル警察国家:人類的な危機と「21世紀型ファシズム」』

ウィリアム・I・ロビンソン(William I. Robinson)(著)、松下 洵(監訳)、岩佐 卓也(訳)、太田 和宏(訳)、山根 健至(訳) 発行:花伝社 発売日:2021年10月13日

## 編纂の寄り道

### 文化祭の歴史から現在へ

福岡女子大学の第1回文化祭は、キャンパスが須崎から香椎へ移転したことを記念して、1953年11月7日から3日間にわたり開催された。以後毎年11月に文化祭が開かれるようになったのだが、学生の意欲や協力の無さが問題になる。仕事の負担が一部に集まり、文化祭を休日と考え参加しない学生も多かったという。第2回文化祭に寄せられた意見の中に「全学生が参加して行こうと思いますが、やはり一部の学生の負担になったと思います」(福岡女子大学新聞第13号より)とあった。さらに第4回文化祭で文化祭に来場しなかった学生について、助教授のひとりには女の強烈的なエゴイズムを見たとして批判し、文化祭開催に不安を示した。この発言は女性蔑視ともとれ、一般的見解として適切なものではないが、当時の文化祭を取り巻く状況への嫌悪感を表しているのと言えよう。文化祭は全学生でひとつのものを作り上げる機会だが、当時は学生自身からその機会を失っていたのである。

これは現在の私たちにも重なるものがあるのではないかと。新型コロナウイルスの影響により2020年度の大学祭(かすみ祭)は中止、2021年度は対面とオンライン配信のハイブリッド形式での開催となった。文化祭の形が変わり、友人と集まること、そもそも友人をつくるのが困難な現在において、「協力する」ことは以前より簡単なことではなくなったのかもしれない。しかし、こういう時こそ少し周囲に目を向けることが求められていると、福女大の文化祭の歴史から学ぶことが出来る。



公演(1963卒業アルバム大10卒)



文化祭プログラム  
(1963卒業アルバム大10卒)



記念誌編集委員会  
国際教養学科2年  
吉田 小春

## 人事消息

### 【教員】

新任	言語教育センター設置準備室 教授 ナイジェル・ストット	2021.9.1
昇任	食・健康学科 助教 森田 理恵子	2021.10.1
退職	国際教養学科 講師 重本 祐樹	2021.9.30

### 【職員】

新任	教務企画センター 久保田 裕子	2021.5.24
	図書館 美術館部門 田代 朱里	2021.6.1
	100周年記念事業推進室 井場 美紀	2021.8.17

### 【職員】

新任	アドミッションセンター 野中 真奈美	2021.9.1
	100周年記念事業推進室 藤岡 萌	2021.9.1
	戦略企画センター 中川 美智子	2021.10.1
	アドミッションセンター 加藤 歩	2021.11.1
退職	アドミッションセンター 北園 文希子	2021.6.30
	学生支援センター 山下 瑞穂	2021.10.30

(2021.5.24~2021.11.1)